

1. 建学の精神に基づき知識・技術・態度を身につけ優れた実践者としての判断力・応用力  
問題解決力が行使できる人材を育成する。

- ・建学の精神を毎朝唱和し意識づけを行っている。授業や実習、学校行事、ボランティア活動などあらゆる機会や場面を通し「建学の精神」を基盤とした教育に取り組んだ。
- ・朝のHRや学校行事、学内演習、臨地（学内）実習、授業等あらゆる機会や場面を通し「建学の精神」を基盤とした教育に取り組んだ。学生一人ひとりの状況や到達度に応じた指導を行い、学科会議等において情報共有を行い、細やかな指導ができた。
- ・毎朝の職員朝礼、ホームルームでの唱和により、日々、建学の精神に立ち返り教育活動を実施することができた。勤労を愛するについてはボランティア活動に出来る限り参加するよう声かけをした。
- ・毎朝の朝礼とホームルームで建学の精神の唱和を行い基本理念の浸透を図った。授業、演習、実習を通して、物事へ取り組む姿勢や人と向き合うこと、状況判断の為の考え方などを指導する努力をした。

2. 全学生の資格取得達成のため、授業評価を用いた授業改善、教材研究、研修に努める。

- ・授業評価を行い授業改善に努めた。また、オンラインでの研修や学会に参加し自己研鑽に努めた。コロナ禍により臨地実習の制限があったが、学内実習でシミュレーターの導入や模擬患者の活用を行い、実習の目的の達成、単位習得が行えた。感染の影響で登校できない学生に対してもオンラインで授業に参加し学習できるように対応できた。
- ・コロナ禍ではあったが、リモート等での学会、研修会の参加により学びを自己研鑽できた。また、令和4年4月から新カリキュラムがスタートしたが特に支障なく運営できている。
- ・各教員は担当科目の授業評価を行うことで授業の改善を図ることができた。しかし、コロナ感染予防対策等の業務や学内実習により多忙になり自己研究などの時間確保が困難なことが今後の課題である。
- ・年度始めに学生への授業評価を実施し、各々の授業について客観的立場からの振り返りを充実させた。90分授業が講義のみにならないようにグループワークや実践活動などを多く取り入れるよう努めることができた。
- ・研究授業・授業研究を実施し授業の改善、教員の質の向上を図ることができた。しかし、学外研修はコロナ禍のため対面での研修会の機会がほとんどなく、リモートの研修会に参加件数が少なかった。

3. 全教職員が一丸となって教育相談を積極的に行い、学生一人ひとりの理解に努める。

- ・学生一人一人の問題について運営委員、学科会議を通して情報を共有し、問題解決に努めた。また、スクールカウンセラーを活用し、学生の心のケアが行えた。新型コロナ対応においても、情報共有や早期の対応、学生寮との協力により感染拡大の防止が行え学生一人一人の健康管理に努めることができた。
- ・個別面談を行い、学生生活のすべてを指導の場と捉え学生理解に努め、学生個々の課題や問題点について真摯に取り組み、保護者との連携を取り、解決に向け取り組んだ。
- ・クラス担任を中心に個人面談を実施し、学生の抱えている問題について真摯に向きあうことに努

めた。場合によっては、病院受診を促し、通院に連れ出したり、主治医との面談を重ね、生活面からの相談、見守りを実施した。保護者との連携には特に注意し、積極的に努めた。

- ・定期的に学科の会議を実施し、各クラス、実習のなかで生じた問題を共通認識し、問題解決に向けて取り組むことができた。スクールカウンセラーの面談を実施しておりメンタル面でのサポートも実施することができた。

4. 教員自ら率先垂範し、地域ボランティア活動等への積極的な参加を通して地域に愛される学校づくりに努める。

- ・令和4年度のボランティアは28件、参加者数343名であった。地区の清掃活動や小学校の運動会、プール掃除、通学路の美化活動など地域に根ざした活動を積極的に行えた。学校行事の小湊敬老感謝の集いや大島養護学校とのクリスマス交流会は昨年引き続きメッセージカードや記念品のプレゼント、オンラインでの交流などコロナ禍をふまえた工夫を行い実施できたことで地域との交流が図れた。
- ・地域の清掃活動へのボランティア参加、通学路の美化活動、小湊小学校の田植え・稲刈り・プール掃除、運動会準備作業の参加など地域活動を学生とともに積極的に行い地域に愛される学校づくりに努めることができた。
- ・自主ボランティア活動に取り組み、時には学生と一緒に活動を実施した。また、地域でのフォーラム等にも学生と一緒に参加し、意見交換を行った。
- ・コロナ禍のためボランティアの参加が難しい状況ではあったが、地域の清掃活動ボランティアや小湊敬老感謝の日にメッセージカードを配布するなど、工夫して地域との交流を図っていた。

5. 入学時からの進路啓発、進路面談を通して専門職に対する資格意識の高揚を図り、就職100%に努める。

- ・進路ガイダンスを行い実際の病院関係者の声を学生に伝え、進路決定を促した。
- ・進路相談や就職試験の面接や出願時の指導を行い、個人面談を行い、就職率100%を達成することができました。進路ガイダンスを開催し、県内、県外の施設を理解し、進路決定に繋がった。
- ・1年時から進路ガイダンス等を実施し、進路啓発に努めた。3年生はハローワークの職員に来ていただき、ジョブカードの作成やハローワークでの面談も実施した。
- ・最終学年では、進路ガイダンスや面接指導、履歴書記入指導など、就職に向けての取り組みを行った。看護学科では、国家試験合格に向けて、1年次から少人数のゼミ制を実施するなど学習へのサポートを行った。就職率は100%であった。国家試験合格率は、介護福祉士89%と看護師94.4%と全国平均を上まわった。昨年度よりも良い成績ではあったが、合格率100%を目指して努力したい。
- ・看護学科では、進路相談や就職試験の面接や出願時の指導を行い、個人面談を行い、就職率100%を達成することができました。
- ・国家試験対策については少人数制の学習サポートを行っており、成績下位の学生の指導強化を図った。
- ・こどもかいご福祉学科では、3年生はハローワークの職員に来ていただき、ジョブカードの作成やハローワークでの面談も実施した。就職率100%を達成し、全員が介護職、保育職に就職することができた。

## 6. 教育事務所、地元関係各機関との連携強化に努める。

- ・奄美市新成人のつどいででの学生実行委員の活躍が見られた。小湊町内会との連携を密に行い、清掃活動、敬老お祝い品配布、ゆらおう会参加、地区のフィールドワーク学習などの協力が得られた。
- ・新カリキュラムの授業科目「地域と暮らし」や「地域の実習」において地域の方々を講師として学校に招いたり、地域行事や小湊小学校の運動会などに授業として参加したことで地域とのつながりが深められた。1年次から市町村・社会福祉協議会・診療所で実習を行い連携を強化できた。
- ・子育て応援団の実施により、地域社会との連携に努めた。
- ・市内の中学校から職業理解や体験学習などで本校に来校してくれた学校数が増えた。奄美大島に住んでいても本校がどんなところなのか知らない子ども達も多くいるので、学校を知ってもらい良い機会になった。その中から、将来本校に入学してきてくれることを期待したい。

## 7. 全職員の協力による学生募集の推進

- ・職員会議や学生募集強化委員会、職員研修などで募集についてのアイデアを出し合った。体験入学では在校生の活用を積極的に行った。SNSを活用した情報発信を積極的に行った。
  - ・学科としては、自己推薦入試出願者を入れたことは、結果につながったといえる。島内17名、島外21名が入学した。また、島内、県外の高校訪問や中学生の職場体験、体験入学の実施、進路ガイダンスへの参加などの広報活動を行った。また、学生の授業風景や学校行事をSNSで発信し魅力ある学校の情報発信に努めた。
  - ・企画広報委員と連携をとり、学生の意見を積極的に学生募集に活かしていくように学科職員で取り組んでいる。
  - ・コロナ禍で、体験入学に島外生が参加することが難しかった。しかし、オンラインでは島外生に参加してもらうことができた。体験入学に参加してくれた生徒が入学に繋がっていたので、参加人数を増やすことが課題にあげられる。
- ガイダンスにも多く参加したが、令和5年度の入学者は看護学科38名、こども・かいご福祉学科は15名と定員を下回る結果であった。